

2021「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い アピール

「希望の光が見えた。犠牲になった21万人に見せてやりたい。」

核兵器禁止条約が発効した1月22日、被爆者から歓喜と決意の声があがりました。

広島では、核兵器禁止条約が発効した日、湯崎広島県知事、松井広島市長はじめ、たくさんの市民と一緒に喜び合いました。核兵器禁止条約の発効は、行政や被爆者団体、市民団体がネットワークを形成して取り組んだヒバクシャ国際署名が、発効への大きな力添えになりました。署名数は、広島県内84万筆、全国では1,370万筆に達しました。一筆一筆に核兵器廃絶の願いが託されました。

しかし、全世界にはいまだ13,000発を超える核兵器が存在しています。日本政府は米国による核抑止力、「核の傘」に依存する安全保障政策をとることを理由に、条約に署名・批准していません。2017年、サーロー節子さんは、核兵器禁止条約を、「核兵器の終わりの始まり」にしようと訴えられましたが、日本では、核兵器禁止条約の締約国会議へのオブザーバー参加ですら及び腰で、いまだ「終わり」が見通せる状況ではありません。

被爆者の平均年齢は83歳を超えています。被爆者は、76年前に体験した、思い出すのも辛い悲惨なできごとを、もう二度と誰にも体験させたくないという強い思いで、次世代に語り継ごうと活動を続けられています。私たちはその思いに寄り添って、行動していきたいと思います。

人類初の核兵器の犠牲になったヒロシマで活動する私たちは、これからも「核兵器は非人道的な兵器であり、人類とは共存できない。」ことを主張し、広く市民社会へ世論喚起したいと思います。私たちの時代に核兵器との共存を終わらせるのです。

本日、ここに集まった私たちは、改めて「戦争も核兵器もない平和な世界の実現」を誓い合い、以下の事をアピールしたいと思います。

記

1. 私たちは、被爆国日本政府はじめとして核兵器保有国を含むすべての国において、核兵器禁止条約を批准し、核兵器のない平和な世界を実現することを求めます。
1. 私たちは、今年8月のNPT再検討会議、来年1月に予定されている核兵器禁止条約締約国会議に向けて、核兵器廃絶への機運を高めます。
1. 私たちは、平和の使徒となり、人道的アプローチにより、被爆者とともに、市民社会をリードする活動を推進します。

2021年5月26日

「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い